

パウロのキリスト3

シリーズ・パウロ 第12回

パウロはイエスを何と呼んだか

■「イエス・キリスト」

- ◆「私たちの主イエス・キリスト」
- ◆パウロの信仰告白

■「キリスト・イエス」

- ◆「キリスト・イエスに結ばれて」
- ◆パウロの実感

■「キリスト」

- ◆イエスはたった一人の完全な救い主である

パウロは苦しんでいた

- 神との正しい関係(義と認められる)を保ち続けたいと願っていた
- そのためには律法を完全に守らなければならないと信じていた
- しかし、自分の中にある「罪」をどうすることもできない(ローマ7章)
 - ◆ 「善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきます。」

神が与えて下さった救い

- 人間の力では解決できない問題を、神が解決して下さい
 - ◆ 「肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださったのです。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。」＜ローマ8:3＞
- 神の御子（キリスト）が人間の罪の罰を身代わりに受けて下さった

わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるとすれば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。死んだ者は、罪から解放されています。わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。

キリストと共に死ぬ

- キリストの死は過去の出来事ではない
- キリストの死は私たちの死でもある
 - ◆ 「キリストと共に葬られ、その死にあずかる」
 - ◆ 「キリストと一体になってその死の姿にあやかると」
 - ◆ 「わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられた」
 - ◆ 「キリストと共に死んだ」

死がもたらした開放

- 罪から開放されるためには死ぬ以外に方法はない
- キリストと共に死んだことにより、罪から開放される
 - ◆ 「罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためである」
 - ◆ 罪＝自分自身から解放されること
- パウロの最大の悩みをキリストは解決した

キリストと共に生きる

- キリストが復活されたように、キリストと共に死んだものはキリストと共に新しい命に生きる
 - ◆ 「キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きる」
 - ◆ 「その復活の姿にもあやかれるでしょう」
 - ◆ 「キリストと共に生きることになる」

パウロのキリスト(解決者)

- 自分の力では解決できない問題の解決
- 思いもよらない解決
- 部分的ではない完全な解決
- 一時的ではない永遠の解決
- 新しいスタートをもたらす解決

あなたは何に苦しんでいますか

- 救いは神からもたらされる
- 救いはあなた自身に与えられる
 - ◆ あなたのまわりが変わるのではない、あなた自身が変えられる

- 神の救いはその場しのぎではない
- 神の救いはまったく新しい道を開く

「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。」 <ローマ6:8>